

# ◆2026年度 中学入試 帰国生【算数】 正答率・問いのねらい・講評

大問	問	正答率		問いの内容・ねらい	講評
		受験者	合格者		
1	(1)	83.7%	82.1%	整数・小数・分数の四則演算、計算の工夫、逆算といった基本的な計算問題を正確に計算できるかどうか。	概ね正答率は高く、例年通りの正答率であった。
	(2)	83.7%	92.9%		
	(3)	83.7%	85.7%		
	(4)	85.7%	89.3%		
	(5)	87.8%	96.4%		
2	(1)①	79.6%	89.3%	食塩水を題材とした割合の基本的な問題が解けるかどうか。	概ね正答率は高かった。
	(1)②	71.4%	89.3%		
	(2)①	34.7%	57.1%	配られたアメを題材とした割合の問題が解けるかどうか。	想定より正答率がかなり低かった。一般的な問題と比べ、条件の表し方を変更したことが要因と推測する。
	(2)②	26.5%	39.3%		
	(3)①	77.6%	92.9%	かけ算の繰り上げを題材とした整数の問題が解けるかどうか。	正答率は高かったが、②の正答率が少し低かった。
	(3)②	57.1%	71.4%		
	(4)①	81.6%	92.9%	円において二等辺三角形が作られることに気づき、図形の性質を利用できるかどうか。	正答率は高かったが、②の正答率が顕著に低く、補助線を引くことの難しさが要因と推測する。
	(4)②	26.5%	39.3%		
	(5)①	87.8%	100.0%	売買損益の基本的な問題と標準的な問題が解けるかどうか。	正答率は高かったが、②の正答率が少し低かった。
	(5)②	49.0%	64.3%		
(6)①	69.4%	85.7%	テストの点数を題材とした平均点と合計に関する基本的な問題と標準的な問題が解けるかどうか。	正答率は高かったが、②の正答率が少し低かった。	
(6)②	44.9%	64.3%			
3	(1)	57.1%	78.6%	最短経路問題をベースに、場合分けの内容を加えた基本的な問題と標準的な問題が解けるかどうか。	最短経路問題は、これまで出題したことがほぼなかったためか、基本問題にもかかわらず正答率は想定より低く、さらに(3)に関しては最短経路問題をベースにした場合分けの問題のため、より難しかったことが推測される。
	(2)	49.0%	75.0%		
	(3)	16.3%	21.4%		
4	(1)	57.1%	85.7%	一往復するバスを題材に、速さと距離に関する標準的な問題が解けるかどうか。	(1)は速さと距離に関する問題としては基本的な問題ではあったが、受験者と合格者で最も正答率に差が見られた問題となった。
	(2)	32.7%	53.6%		
	(3)	16.3%	28.6%		
5	(1)	20.4%	28.6%	水そうを題材に、グラフから水面の高さの変化を読み取る標準的な問題と発展的な問題が解けるかどうか。	本校でもよく見かけるような水そうを題材にしたグラフの読み取り問題であったが、正答率は想定より大幅に低くなった。
	(2)	18.4%	32.1%		
	(3)	16.3%	28.6%		